

市民リポーター
工藤 昭恵さん

●くどう あきえ
柏木町在住。40歳。
伊達市出身。平成13年4月
から幌別西小学校PTAの
厚生部長を務める。主婦。



▲バザーの菓子づくりに励むPTA役員のみなさん（幌別西小学校PTA事業『ふれあい祭り』）

お父さん、お母さん 学校へ行こう！

PTA活動の現状と課題

全国的に、役員のなり手がいない、レクリエーション以外には会員が集まらないなど、抱える課題も多いといわれる父母と先生の会『PTA』。学校教育の振興に貢献してきたPTAは、今、変革を求められているようです。市内小・中学校などでPTA活動に取り組まれている方を訪ね、PTA活動の現状や課題などをレポートしました。

子どものたちの健全育成とPTA活動への参加意識

私がPTA役員として、事業の企画や運営などに携わり3年が経ちました。年ごとに感じることは、PTAの会議や父母の集いに参加される方の人数が少なくなっていることと、顔ぶれがいつも同じように感じられることです。ほかの学校に子どもを通わせている知人などの話しでも、このようなPTAの状況は同じようです。今、『ゆとり』の中で、個性豊かで主体的に『生きる力』に満ちた子どもの育成を目指した教育改革が進められて

います。そこでは、学校、家庭、地域の連携が重要で、PTAの担う役割はますます大きくなるといわれています。未来の社会を担う子どもたちを、協力して、健全に育成することは私たち大人の責務。今、PTAとの関わりの中で、私たち児童を抱える親は、どのような活動が求められているのでしょうか。

もっと、学校へ足を運びませんか

「市内だけではなく、全道規模のPTAの集いでも、PTA活動への参加意識の低下が話題に上がりますよ」と



市民リポートは、市民のみなさんが自由に発想・企画するページです。

話すのは、幌別東小学校PTA会長の梅田秀人さん。



梅田 秀人さん

梅田さんは、今年4月から胆振西部PTA連合会会長と登別市PTA連合会会長を務めるなど、精力的にPTA活動に取り組んでいます。

「市内小・中学校PTAの多くが、役員のなり手が少ない、会議や事業の参加者が減少しているといった課題を抱え、役員のポストの数を減らしたり、事業内容や運営方法の見直しを行うなど、工夫されているようです。こうした背景には、少子化や共働き家庭の増加、組織や規約に縛られるのを嫌う風潮などがあるように思います。まず、会員のみなさんには、PTA事業を通して学校へ足を運んでいただきたい